

# 国際都市つくばの新しい国際化施策 一定住外国籍児童に対する「職育」プログラム



## 活動趣旨

つくば市は、130カ国以上の出身地から7,500名以上(割合にして3.5%以上)の外国籍住民を抱え、今現在もその数を増やしている、全国有数の国際都市です。つくば市は、高度な専門性をもった研究者や留学生など、いわゆる「外国人材」の集積地とみなされてきたという事情もあり、地域の国際化に取り組む自治体や本学は、これまで国際交流に資源を多く費やしてきました。しかし2008年秋以降の経済危機と景気低迷により、言語教育(日本語および母語)や社会適応、とりわけ職業能力開発を中心とした教育支援を必要とする定住型の外国人人口が、つくば市を含め茨城県下で急増しています。定職のない未成年者や未就学にある外国籍の子どもが、地域社会から隔絶され、社会的向上心や自立心を養う機会を持つことなく、日本社会で生きていくための長期的なキャリアパスを描けずにいる場合も珍しくありません。大学・自治体・NPOなどの連携のもとで立ち上がった本プロジェクトは、上の問題意識を共有し、外国籍住民・子どもに対する「職育」分野の持続的な支援と連携体制の構築を目指しています。

### 連絡協議会の開催等

大学研究者(国際交流および日本語教育分野)、自治体(茨城県およびつくば市)、国際交流協会、当該事業分野に精通する複数のNPOを中心構成メンバーとする連絡協議会の開催による定期的な情報交換とネットワークの強化(計4回)。参加者は各回約10名。上の活動に加えて、支援対象者からの持続的フィードバックおよび現地に赴いてのニーズ調査を複数回実施。筑波大学学生サポーターの組織化。

### ワークショップ

ワークショップ「<第2回>教育とキャリアによる夢の実現に向けて」の開催(計1回)。ワークショップ参加者は約70名。上のワークショップに参加した一企業が、本プロジェクトが掲げる「職業教育」の趣旨およびその取り組みの成果に理解を示し、支援対象者若干名の正規採用を決定した。教育関係者(茨城県の中学校教員)、企業経営者、キャリアコンサルタント、大使館職員も多数参加し、外国籍児童の将来について検討を重ねた。

### 職業能力開発支援

筑波大学生が企画運営を担当し、実務者を招いてのキャリアデザイン講座を実施(計3回)。支援対象者は各回約40名。看護・介護・歯科衛生士など医療関係分野の職業、美容師・フォトグラファー・イラストレーターなどの特定技能職、大学進学などについて説明と実習を行った。上の支援活動とは別に、同市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)にて、科学技術とキャリア形成に関する座学および実地研修を実施。参加者は約20名。